

地域課題解決に資する コミュニティカフェのデザイン

1 目的・概要

このプロジェクトでは、地域の人々と一緒に地域住民が集まって交流する場をデザインし、コミュニティカフェの1日運営イベントなどを通じて、地域住民や行政職員等と交流し、地域課題の発見能力や、交渉能力、提案能力などの向上をはかるために活動しました。

コミュニティカフェのコンセプトは誰でも、気軽に集って交流することのできる、安価な飲食を提供しているカフェです。

春学期はコミュニティカフェや孤独などの社会的課題を見つめ直し、プレコミュニティカフェを運営しました。秋学期では、解決するべき社会課題を「元気なつもり男性高齢者の孤独」と災害対策としました。



Annual Schedule

2018年

4～6月 現状把握

7月 江湖館にてプレコミュニティカフェの準備と実施

9～12月 コミュニティカフェ「おちゃのご菜々」の準備

2019年 1月 アンテナカフェにて「おちゃのご菜々」実施

2 成果達成度

春学期

春学期のプレコミュニティカフェは3班に分かれて運営しました。

* 「女子大生とふりふりアイスブレイク」

手作りアイスを他者と交流しながら調理し、一緒に食べることでコミュニケーションが生まれるように工夫しました。10分間アイスを作る工程があったためそこで協力したり、食べる際にはコミュニケーションが産まれたが、対応するスタッフが参加者に対して少なくその後のフォローアップが課題となりました。



* 「ドミノカフェ」

ものづくりとその反対である物を壊すというところから思いついたカフェです。後から来た人でも説明なく参加しやすい、ドミノを他者と協力しながら作れるカフェにしました。作成中は夢中になるあまり無言の時もありましたが、完成したドミノを倒す時はみんなが笑顔になれるカフェを作り上げることができました。



* 「写真カフェ」

みんなが撮影した写真を印刷して飾ったりその時の話をしたりするカフェです。

写真を持っていない人には庭の写真などを撮ってもらい参加してもらいました。それぞれの思いの写真をシェアできるカフェになりました。印刷代のコストと顔など個人情報に関わる写真の処理が今後の課題です。

秋学期



秋学期は春学期の反省を活かしたコミュニティカフェをクラス全体で作ります。

高齢者が孤立する社会を解決すべきとしました。バーチャルでターゲットとなる人物「妻を亡くし家事などはあまり得意ではないが、元気なつもりなのでデイサービスには通わないと決めている少し頑固な男性高齢者」を作り、その人のためとなるコミュニティカフェを創造します。

また、このカフェではハザードマップの設置をすることで、「人とのつながりを育むことができる場」

を提供します。ここで用いるハザードマップは、既に完成されたものをただ閲覧用で設置するのではなく、参加者に情報提供を手伝って頂き、運営者・参加者が共同でつくりあげるものです。具体的には、カフェ運営者が上京区周辺地域における大きなハザードマップの雛形を用意し、最低限の情

報を記しておきます。そこで参加者に、該当地域で撮影した写真をデータで持ち寄って頂き、その写真をカフェで印刷し雛形に貼ることで情報量を増やしていくという仕組みです。このハザードマップは自然災害への知識面の備えとなるだけでなく、写真という多くの人に親しまれる趣味を通すことで、参加者が共にハザードマップに触れる機会が増え、その写真を撮った経緯やそれに因んだ会話が生まれつながりを育むきっかけになります。

3 プロジェクトを通じて

この1年間で私たちは具体的な社会課題の探求とコミュニティカフェのあるべき姿、目的について学びを深めました。特に秋学期では1人の高齢者を創造することで見えてくる社会課題は1つではなく、孤立、孤独死、認知症の恐れ、食事など複数面の社会課題を見つけることができました。また、コミュニティカフェの運営についても会場選びや広報、サービス内容など多岐にわたる必要事項の中ですべてがうまくいくということはなく限られた日数でできるところからこなししていく力が尽きたように感じます。



プロジェクトメンバーが多く、各自の認識違いで目的や手段がぶれてしまうことがありましたが、人数が多いからこそ多くのことに気づけたり、不足していること、認識違いが起きていることに気づけた面も多々ありました。メンバー同士だけでなく、担当の先生とも考え方の違いでぶつかることはありましたが、コミュニケーションを大切にすることで乗り越えられたと思います。

1人1人がやりたいこととできることを認識し、力を合わせてプロジェクトや課題に向き合うことの大切さや必要性が学べ、成長できた1年になりました。



編集後記

このプロジェクト科目を振り返ってみるといろんな人がいると感じた1年だったと思います。カフェに興味がある人、地域に興味がある人、高齢者に興味のある人が混じたプロジェクトでした。興味のある分野も学年も違う人たちと同じ目的をもって物事に取り組めたのは一生の糧になると思います。支えてくださった先生方、SAさんありがとうございました。

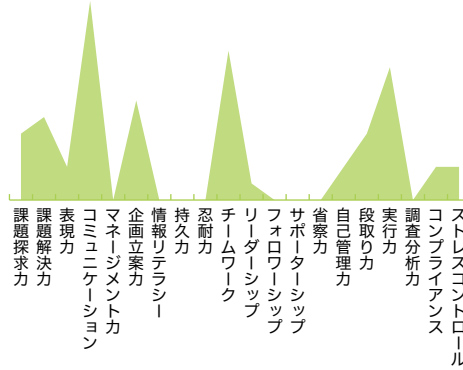
プロジェクトメンバー

松原 奈生(経2) 北沢 ちひろ(社2) 赤松 和樹(政2) 桂 花菜子(政2) 下村 真優(政2) 濱田 克洋(政2)
坂本 瑠(文3) 浅井 結衣(法3) 中武 龍一(法4) 大野 旬平(経3) 坂井 祐久(経3) 岩崎 亜美(社3)
谷川 鈴和(社3) 柴橋 和樹(政3) 谷村 和香(GR3) 畑中 恵里奈(経4)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

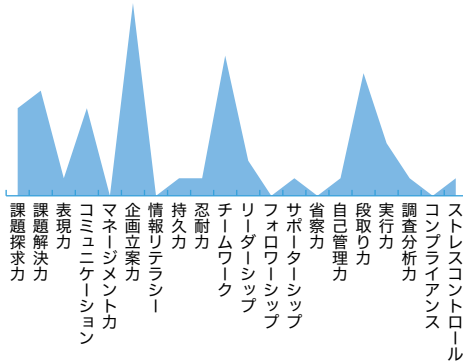
授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

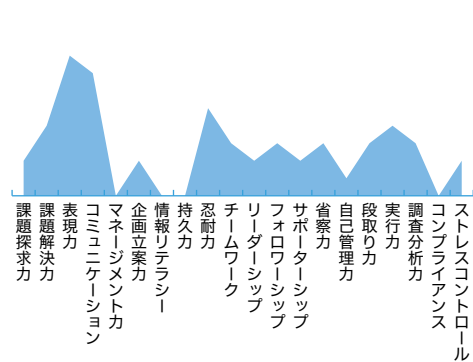


春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

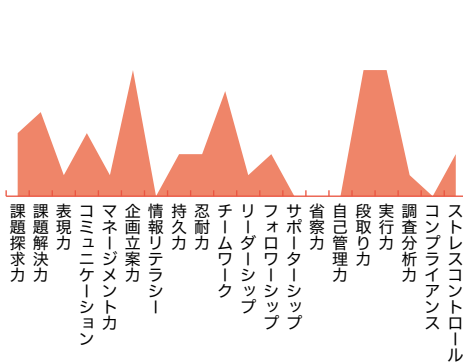


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

